

チャイルドの人生設計が盛んに言われるようになりました。

日本人は公害モルモット

しかし、母親業とは、そんなにヒマなものでしょうか、わが子だけにおいしいものを食べさせ、いい着物を着せ、いい大学に入れさえすれば、幸せになれるという時代であれば、そういう考えも成り立ちましょう。しかしそれでは子どもの幸せどころか、命さえも守れないということをおかあさん方はあまりにも知らな過ぎると思うのです。

いま日本は世界中の注目をあびるほどの公害国になっています。世界の水銀の許容量をはるかにこえる環境に住みながら、なおも生き続ける日本人というのは、各国学者のモルモットとして注目されるほどなのです。米国よりはるかにせまい日本の農地に、なんとその七二〇倍の水銀をたたきこんでしまったのです。それがいま、米をはじめ、あらゆる農産物の中含まれて出てきています。

水銀、PCBなどの有害物質は、食物連鎖の法則によつて、だんだん濃縮され、蓄積されて危険度を増してゆきます。したがって、われわれ大人よりも胎児に多く影響が現われることになるのです。幸せとは、六〇く七〇才になつても、健康で人間らしく生きることにあるので

はないでしょうか。われわれの子が人生の途上で奇形児を生むようなことがあれば、その子の人生は閉ざされてしまうのです。

厚生省の発表によりますと、わずかに二〇年間に異常児死産の例は十二倍にふえています。このままですと六五年には四五倍にふえるだろうといわれ、また、異常児の出産は一人中一三六人にもなります。一見、五体満足に見えても、完全な健康体ではないという子は、一人中三千く四千は下らないと、小児科医は、はっきり言っております。

また、水、空気、食物のどれもが異物を含んでいるために、ガンが多発しており、それも特に小児ガンの増加が注目されております。

海はひとつ、空はひとつ

どうしてこういう恐ろしいことになってしまったのでしょうか。それは、私たち日本の母親が、命の連帯をもつて行動してこなかったからだと思います。一例をあげますと、日本のように、子どもの命を危うくするような商品を買つても、絶対に企業がつぶれない国は他にありません。もし外国で、森永と素ミルク中毒事件のようなことを起こしたら、企業が存立の危険を感じるまで、母親たちは完璧な不買運動を通して闘うでしょう。そうし